



審曆十二壬午

歳旦

美濃關

花鱗堂

知六

春の皴より囉れそき控え  
梅もやほしき  
今の上と驛乃東風へ  
性自  
性自

其二

去年はけと笑顔の皴  
若人の中へ  
動水好山と  
性自

其三

神心  
本任へ又  
性自

歳暮

春の皴や十高  
幸は只一  
性自

長閑  
性自

雑興

眠るも本  
氷の  
雨の  
大豆茹  
性自

性自

